

中部様式
(調査事業)

令和 4 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

碧南市地域公共交通活性化協議会

令和 4 年 4 月 1 日設置

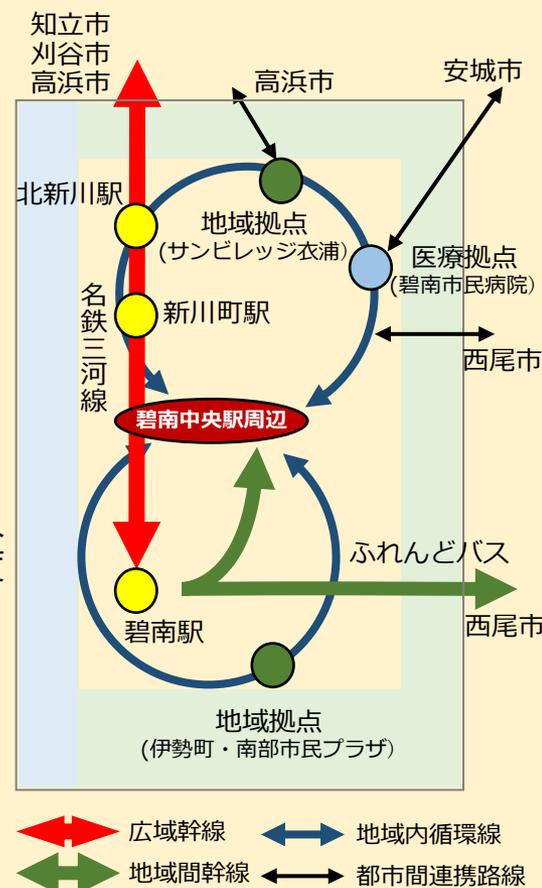
調査事業 (計画策定) 令和 6 年 3 月 地域公共交通計画策定予定

調査の背景および必要性

- ▶ 碧南市の人口は72,458人（令和2年国勢調査）で近年横ばい傾向にあります。将来的には減少に転ずることが予測されるとともに、65歳以上の高齢化数は17,247人、高齢化率は23.8%（同前）はともに増加傾向にあるため、**高齢者の移動需要の増加に対応した公共交通サービスがより一層求められることが予測**されます。
- ▶ 碧南市人口ビジョンでは、**高齢者や子育て世代等の多様な主体が利用しやすいまちづくりと連携した公共交通体系の構築**を目指しています。
- ▶ 市内巡回福祉バスとして**くるくるバスを無料で運行しており、市内のほぼ全域をカバー**しています。
- ▶ 市内のほぼ全域をカバーしている関係上、**外周ルートは1周約3時間を要し、本数の増便やルート見直しを望む声**が挙げられています。
- ▶ くるくるバスの運行経費約4,000万円は全て市単独予算で賄っていることや、鉄道廃止代替として運行するふれんどバスの補填金約1,500万円を負担している状況にあります。
- ▶ これらより、調査事業を活用して市民や利用者のニーズを把握・分析した上で、**本市にあった最適かつ持続可能な公共交通の構築を進める碧南市地域公共交通計画を策定**することとしました。

碧南市における公共交通ネットワーク

- ▶ 碧南市の公共交通は、名鉄三河線の碧南—吉良吉田間の廃止に伴うふれんどバス（鉄道廃止代替バス）の運行や安城市や高浜市、西尾市のコミュニティバスの市内乗入れ、2つの事業者によるタクシーの運行など、**碧南市及び周辺都市の公共交通環境は時代とともに変化**しています。
- ▶ 碧南市が運営するくるくるバスは、市民や地域団体、交通事業者等で構成される利用促進協議会が、コースやバス停の増設、バス車体への広告掲載など、様々な利用促進施策や利便増進施策を実施してきた結果、近年の年間利用者数は約13万人で推移（令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い約9万人に減少）しており、**くるくるバスは市民の足として利用が定着**しています。



B.地域公共交通調査事業の内容と結果

実施した調査およびその結果明らかになったこと（その1）

事業内容	結果概要
<p>1. 本市の地域特性と公共交通の現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通需要が発生・集中する背景となる本市の都市特性 ・ 本市の公共の現状 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口は2005年以降横ばい、65歳以上の高齢者は実数・割合とも増加傾向。 ・ 通勤通学流動の約6割は市内移動が占めるが、安城市や西尾市などの近隣市や名古屋市との結びつきも強く見られる。通学流動のうち流出は名古屋市、流入は西尾市や高浜市が多い。 ・ 鉄道駅から800m、バス停から500mを利用圏域とした公共交通ネットワークの人口カバー率は99.8%と、ほぼ全人口を利用圏域内に内包している。 ・ 公共交通ネットワークの利用者数は新型コロナウイルスの影響で2021年は2019年と比べ名鉄三河線83%、ふれんどバス81%、くるくるバス74%、タクシー61%。大きく減少した2020年からは回復基調にある。 ・ 市内に営業所を持つタクシー事業者は2022年3月に1事業者が撤退し、現在2事業者が運行。 ・ 市内の福祉有償運送事業は2つのNPO法人が運行している。 ・ 福祉タクシー料金助成事業や高齢者外出支援サービス事業を実施している。
<p>2. 各種ニーズ調査</p> <p>①市民アンケート（R4.10実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15歳以上の市民2,000人、配布・郵送、Web回答 ・ 普段の外出（目的、目的地、頻度、手段）、公共交通サービスの認知度、公共交通に期待する役割等 <p>②乗降調査（R4.10実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれんどバス（抽出便）、くるくるバス（全便全利用者）対象。平休日各1日実施 ・ 乗降バス停、乗り継ぎ交通手段等 	<p>（回収数969票、回収率48.5%）</p> <p>【公共交通の利用割合（年に数日程度以上利用者）】名鉄電車49.7%、タクシー17.6%、くるくるバス9.9%、ふれんどバス1.7%。</p> <p>【認知度】市内に名鉄電車やくるくるバスが走っていること（9割以上）。自宅近くのバス停の位置や、タクシー予約の電話番号（2割以下）</p> <p>【期待する役割】通勤・通学するための交通手段（名鉄電車・ふれんどバス）。自家用車が利用できなくなった場合や通院・買物するための交通手段（くるくるバス）</p> <p>（平日642票、休日355票）</p> <p>【OD】（ふれんどバス）碧南駅・吉良吉田駅と高校最寄りのバス停の利用が多い。（くるくるバス）市役所周辺、東部・南部プラザ、市民病院、鉄道駅等多様な利用が見られる。</p> <p>【利用特性】（ふれんどバス）30歳代以下が平休日ともに6割を占め、目的は平日は通学70.4%、休日は買物・飲食や観光・娯楽が各14.3%を占める。（くるくるバス）60歳以上が平休日ともに5割を占め、目的は買物・飲食が平日は21.7%、休日は30.6%を占める。</p>

B.地域公共交通調査事業の内容と結果

実施した調査およびその結果明らかになったこと（その2）

事業内容	結果概要
<p>③バス利用者アンケート（R4.10実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗降調査対象者へ手渡し配布・郵送回収にて実施 サービス項目別の満足度・重要度、くるくるバスの今後のあり方等 	<p>（回収数147票、回収率22.1%）</p> <p>【ふれんどバス】現在の総合的な満足度（満足+やや満足）は72.2%、今後重要なサービスは運行本数、運行時間帯、運行ダイヤの順となっている。</p> <p>【くるくるバス】現在の総合的な満足度（満足+やや満足）は68.2%、今後重要なサービスは運行本数、運行ダイヤ、運転手の対応の順となっている。</p>
<p>④交通事業者ヒアリング（R4.11実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道・バス・タクシーの各交通事業者を対象にしたヒアリングを実施 	<p>【名鉄電車】自治体と連携し、駅中心としたまちづくりに協力・実施している。</p> <p>【ふれんどバス】沿線自治体、学校、住民と連携し、運行の見直しやイベント実施等利用促進事業を実施している。</p> <p>【くるくるバス】市民生活に重要な路線と認識し、利用者が安全・便利な取り組みを進めていきたい。</p> <p>【タクシー】利用のピークは6～8時、17～18時及び19～20時。夜の利用が回復していない。</p> <p>※調査事業項目とは別に市で地区ミーティングを実施し、地区住民からは運行本数の増加や安心して待てるバス停環境の整備の声を把握している。</p>
<p>3. 地域公共交通の課題整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 前項までの地域特性や公共交通の現状、各種ニーズ調査結果を踏まえ、碧南市における地域公共交通の課題を整理 	<p>碧南市における地域公共交通の課題は、現段階は以下の課題案で検討中（令和4年度中にとりまとめを予定）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①増加する高齢者を始め、学生など幅広い世代が利用しやすく分かりやすい公共交通サービスの提供 ②公共交通に関わる全ての関係者が連携して、公共交通に対する意識を醸成しつつ、利用して元気になる取り組みの実践 ③多様な都市機能が集積する市中心部と各地域の交流や、碧海5市及び西尾市・名古屋市等の広域的な移動ニーズに対応した公共交通の維持・活性化
<p>4. 碧南市地域公共交通の方向性検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の公共交通の展開方向を整理 	<p>（令和4年度中にとりまとめを予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に作成する地域公共交通計画の基本方針につなげる公共交通の展開方向を整理します。

調査結果の地域公共交通計画への反映

現在、碧南市における地域公共交通の課題を整理している段階のため、地域公共交通計画（案）に反映した取り組み内容は予定事項として記載します。

- 現行の公共交通ネットワークによる人口カバー率が99.8%とほぼ全域を内包するきめ細やかなサービスが提供されていることを背景とし、新型コロナウイルス感染症の拡大で近年公共交通利用者数は減少するものの、新型コロナウイルス感染症の拡大前までは着実に利用者数は増加してきたことから、基本的には現在の公共交通サービスの維持を図るものとします。
- 公共交通サービスの維持に当たっては、運転手の労働環境の確保や運転手そのものの確保に向けた取り組みを支援します。
- 今後、人口減少局面を迎えることや、高齢化がさらに進展する人口構造の変化を踏まえつつ、碧南市が目指すまちづくりでは高齢者を始め、子育て世代等幅広い世代が利用しやすい公共交通体系の構築を目指していることから、碧南市の公共交通を取り巻く状況の変化やニーズに応じた適切な公共交通サービスの確保・維持・改善を図ります。
- 市民や利用者が各公共交通手段に期待する役割を踏まえ、確保すべきサービス水準等を明確化します。
- 公共交通手段で利用者の割合は異なりますが、市民の50～98%の非利用者等（年に数日程度以下の利用者）に対して、わかりやすい情報・案内の提供や、イベント等と連携して公共交通を利用したくなるしかけなど、交通行動の変容を促す取り組みや利用を増進する取り組みを実践していきます。
- 名鉄電車は名古屋市や沿線市町への広域的な移動需要に対応したサービスを確保しつつ、行政と交通事業者が連携して駅を中心としたまちづくりを進めていきます。
- ふれんどバスは高校生の通学利用に配慮しつつ、更なる利用増進に向けたサービス改善について、交通事業者・学校・住民と連携した運行の見直しやイベント等利用促進事業を進めていきます。
- くるくるバスは生活交通としての機能を確保しつつ、利用者の安全・便利な取り組み（バス停環境の整備、バスロケーションシステムの導入等）を進めていきます。
- タクシーについては事業者と調整のうえ、利用促進施策を展開します。
- これら取り組みは、市民・利用者・交通事業者・行政など、多様な関係者が連携・協働して持続可能な公共交通体系の構築を目指します。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名: 碧南市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
<p>【事業内容及び結果概要を記載】</p>	<p>A・B・C 評価</p> <p>【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】</p>	<p>【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】</p>
<p>1. 本市の地域特性と公共交通の現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤通学流動は安城市や西尾市などの近隣市、名古屋市との結びつきが強い ・現行の公共交通ネットワークにより利用圏域人口は99.8%を占める <p>2. 各種ニーズ調査</p> <p>①市民アンケート(15歳以上の市民2,000人に配布、回収率48.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用割合(年に数日程度以上利用者)は、名鉄電車49.7%、タクシー17.6%、くるくるバス9.9%、ふれんどバス1.7%の順 ・名鉄電車・ふれんどバスは通勤・通学、くるくるバスは自家用車が利用できなくなった場合や通院・買い物の交通手段として期待 <p>②乗降調査(平休日各1日にふれんどバス抽出便、くるくるバス全便で実施、回収数は平日642票、休日355票)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバスのODは碧南駅・吉良吉田駅と高校の利用、くるくるバスのODは市役所周辺、市民病院、鉄道駅等多様な利用 <p>③バス利用者アンケート(乗降調査に合わせて実施、回収率22.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な満足度はふれんどバスが72.2%、くるくるバスが68.2% <p>④交通事業者ヒアリング(鉄道・バス・タクシー事業者を対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各交通事業者とも行政や住民等と連携した取り組み(運行・サービスの見直し、イベントの実施等)の実施意向が示された <p>3. 地域公共交通の課題整理(令和4年度中にとりまとめ予定)</p> <p>①増加する高齢者を始め、学生など幅広い世代が利用しやすく分かりやすい公共交通サービスの提供</p> <p>②公共交通に関わる全ての関係者が連携して、公共交通に対する意識を醸成しつつ、利用して元気になる取り組みの実践</p> <p>③多様な都市機能が集積する市中心部と各地域の交流や、碧海5市及び西尾市・名古屋市等の広域的な移動ニーズに対応した公共交通の維持・活性化</p> <p>4. 碧南市地域公共交通の方向性検討(令和4年度中にとりまとめ予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の公共交通の展開方向を整理 	<p>A</p> <p>各種調査の実施・分析より、市民や利用者の公共交通に対するニーズを始め、交通事業者の意向を把握することができた</p> <p>年度末までに地域公共交通の課題を整理しつつ、活性化協議会において関係者と共有・協議することで地域公共交通計画の基本方針へとつながる対応方向を整理する</p>	<p>【補助対象事業名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通調査事業(計画策定事業) <p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碧南市地域公共交通調査事業委託 <p>【実施時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年7月1日～令和6年3月31日 <p>【計画策定に向けた方針】(令和5年度に策定予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内移動においては、くるくるバスの市民・利用者定着を鑑み、現行のサービス水準を維持しつつ、高齢者を始め、学生等幅広い世代が利用しやすく、わかりやすいサービスを提供 ・市外移動は、碧海5市や西尾市といった周辺都市や名古屋市との結びつきの強さを踏まえ、名鉄三河線、ふれんどバスを幹線軸としたサービス水準の確保とともに、利便性向上に向けた各種利用促進施策を展開 ・市域縁辺部で周辺市と接続するバス停では乗り継ぎ利便性の向上に向けた環境整備を展開 ・交通事業者ヒアリング結果を踏まえ、交通事業者、行政、住民、各種団体(学校、地域等)が連携・協働した取り組みを実践し、公共交通の意識醸成や利用促進を図る